

獨 協 大 学 長 殿

学 外 研 修 報 告 書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。
つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報 告 日	2024 年 10 月 11 日	所 属	外国語学部英語学科
職 名	准教授	氏 名	羽 山 恵 
研修種別	1. 海 外 2. 国 内	研修種類	1. 長 期 2. 短 期
研修期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日		
学外における主な研修機関および訪問先 - 埼玉大学 - 埼玉県内小学校・中学校・高等学校 - 福島県田村市			
出張目的または研究題目 「埼玉県の小学校・中学校における英語授業支援のあり方： 大学・民間機関・外部人材の活用による英語教育強化の可能性」			
資 格 1. 年度獨協大学学外研修員（派遣） 2. 本学承認の学外研修員（自費等） 3. その他（ ）			
大学から支給された費用（要清算書類）・補助金額		50 万円	
研修内容（1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入）			
1. 研修経過の詳細			
近年大きく変容する学校英語教育実践において、その実態を知り、大学として何を支援 することができるのか探索するのが、本研修の主な目的であった。そこで、獨協大学が 所在する埼玉県内の主に小学校・中学校を頻繁に訪ね、外国語科および英語科の授業を 観察する機会を求めた。			
学校英語教育の実態を知るにあたり、以下の方法をとった。			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

① 埼玉大学教職大学院の授業参加

埼玉県では伝統的に小学校・中学校・高等学校の教員の長期研修が推進されており、現職教員が首都圏の主な国立・私立大学に1年間在籍して研鑽を積んでいる。そこで、埼玉大学教育学部の及川賢教授に依頼し、先生の教職大学院の授業を受講させて頂き、英語教員を志す大学院生に加え、小学校・中学校の先生方と多く交流する機会を頂いた。2023年度に及川教授の授業を履修していたのは、鴻巣北小学校の中村恵美先生（大野政巳英語教育賞を2年連続で受賞）と、戸田市立喜沢中学校の福士直子先生だった。両先生方とも、英語教育実践に優れ、これまで培われた実践方法と理論的背景に基づいた研究との連携を試みておられた。院生・先生方との対話において、多くのことを学ぶことができた。

② 小中学校の授業観察

多くの小学校・中学校の授業を参観する機会を得た。埼玉県教育委員会が実施している若手教員を対象とした「アクション・リサーチ研修」では、指導助言者である埼玉大学の及川賢教授のご紹介のもと、県教委の指導主事および埼玉県総合教育センターの指導主事とともに、伊奈町立中学校の英語教諭の授業と鴻巣市立小学校の学級担任による外国語科の授業を、数ヶ月にわたり参観・協議する機会を頂いた。また、獨協大学大学院の英語教育研修プログラムの受講者であった勝呂奈緒先生の勤務校である八潮中学校では、同日に1学年・2学年・3学年の授業全てを参観する機会も頂いた。その後の各学年担当の英語科教員の先生方との合同協議会は大変有意義だった。

埼玉県西部地区の小中合同の外国語科・英語科教員研修は、校種を超えて先生方が活発に情報や意見を交換する様子が非常に印象的だった。近隣学区の先生同士ということでもあり、互いに本音を語り合う様子に感銘を受けると共に、それを可能にする機会や雰囲気を作る主催者（地区の英語教育研究会）の尽力に感銘を受けた。同様のことは、さいたま市の公開授業および協議会でも感じられた。さいたま市は独自のカリキュラムと教員採用を施行しているが、同会に参加していた教員はいずれもさいたま市で英語教育に携わることを誇りに思っているように見受けられた。さいたま市の教員になる大学生を育成する「夢塾」に、本学学生が参加していることも知った。

埼玉県北部（大里）地区の中高英語教育研修会では、指導助言を担当する講師を務めさせて頂いた。県立岩槻高校の校内研修にも招いて頂き、高校の実情も知ることができた。

③ 小学生への英語指導体験（復興知事業・子ども大学そうか・草加市立小山小学校）

福島イノベーション・コースト構想機構のもと、本学が福島県田村市と協働している

「復興知事業」に参加し、田村市の小学生を数ヶ月にわたり指導する機会を得た。小学生に英語を指導するのは初めての経験であり、大変多くのことを学ぶ貴重な機会となった。

また、獨協大学と草加市教育委員会が共催する「子ども大学そうか」においても講座を担当した。こちらでは PC 教室においてコーパスを用いた英語表現のデータ駆動型学習を含んだが、それにより小学生の ICT スキルの実態の一端を知ることができた。

教室におけるリアルな英語指導体験では、草加市立小山小学校で数回の授業を担当させて頂いた。同小学校には草加市教育委員会が組織している「国際理解教育推進委員会」の吉川たえ教諭が勤務されており、2023 年度は特に本学の学生や留学生、教員とともに外国語科の授業に参加した。吉川先生の担当する第 5 学年の児童たちとは 10 回以上も会い、年度後半の「飛び込み授業」（主に学外者が単発で行う授業）も、和やかでありながら子ども達の知識、技能および思考力・判断力・表現力を発揮してもらえるような授業展開をすることができた。

④ 小学校教育のための教科書活用勉強会

獨協大学が所在する草加市は、改訂版検定教科書の採択にあたり令和 6 年度から新しい小学校外国語科教科書を採用することを決定した。それは光村図書の『Here We Go!』で、それまで中学校において長い年月採択してきた開隆堂『Sunshine』の小学校版（『Junior Sunshine』）からの変更は画期的と言える。教科書の変更は教員の教材研究はじめ授業準備の負担や不安を増長させる傾向にある。そこで、主に草加市の小学校の先生方を対象とした「教科書勉強会」を開催することとした。参加しやすいようオンライン形式とし、各回の録画を YouTube に載せアーカイブし、オンデマンド視聴も可能とした。全 5 回の講座を展開したが、「第 1 回 Here We Go! の特徴を学ぼう」（講師 同書副編集長）、「第 2 回 スモールステップを刻もう」（講師 草加市立小学校外国語専科教諭）、「第 3 回 共通カリキュラムとシラバスがあれば大丈夫?!」（講師 熊谷市立教育委員会指導員、同市立小学校教諭）、「第 4 回 家庭学習の実態と外国語科の宿題の可能性」（講師 八潮市立小学校教諭）、「第 5 回 超現実的な小中連携の可能性」（講師 八潮市立中学校教諭）と、内容・講師共に多岐にわたり充実していた。多くの方々に参加・視聴頂き、反響も頂いた。

<総括>

以上のように、数多くの学校を訪問し、大勢の外国語科および英語科に携わる教員や教育委員会や教育事務所、教育センター等行政に関わる方々と交流することができた。

2020 年度からの小学校新課程やコロナ禍による ICT を活用した教育の急激な推進により、ここ数年で日本の学校英語教育事情は大きく変容した。このさなかに学外研修の機会を得、学校現場の実態を知ることができ、また多くの人たちとの関わりが生まれたことは、今後本学での教育実践を行う上で非常に大きな意義があると感じられる。第一に獨協大学に入学してくる学生たちが小中高でどのような英語教育を受けてきたのかを知ることが可能になった。第二に、本学で教職課程を履修し、卒業後に英語教員になろうという学生に適切な教職に関わる指導ができる。

現在日本の教育界はその人材不足により困難に直面していると言える。しかしながら、未来を担う子ども達の育成は言うまでもなく国家にとって重要な責務であり、それを主に務める教師になりたいと思う学生の育成は、本学が社会に対して果たすべき役目の一つだろう。本研究で得ることのできた知見や今後に向けての可能性を十分に活かし、引き続き獨協大学での教育研究実践に励んでいきたい。

2. 研究成果発表の予定**■「保護者の英語学習に対する「思い入れ」と児童の英語能力・情意との関係」**

日本児童英語教育学会（JASTEC）第 43 回秋季研究大会, 2023 年 10 月 8 日.

（河合裕美氏（神田外語大学）・及川賢氏（埼玉大学）との共同発表）

■「外部機関の物的・人的資源を活用した国際交流プロジェクト実践例

—英語を得意とし、学習意欲も高い児童にもたらされる変化とその波及効果とは？—

第 24 回小学校英語教育学会（JES）山口研究大会, 2024 年 7 月 14・15 日.

■「児童の英語学習に関わる情意と学校外学習との関係」

第 49 回全国英語教育（JASELE）福岡研究大会, 2024 年 8 月 24・25 日.

■児童英語教育学会（JASTEC）学会誌投稿予定**■関東甲信越英語教育学会（KATE）学会誌投稿予定**